

株主メモ

株主優待制度のご案内

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定期株主総会 6月
基準日 3月31日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
〒100-8212
同事務取扱所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話（通話料無料）0120-232-711
※株式会社エイジス関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。
電話（通話料無料）
0120-244-479（本店証券代行部）
0120-684-479（大阪証券代行部）
インターネットホームページ
http://www.tr.mufg.jp/daikou
同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
一単元の株式数 100株
公告方法 日本経済新聞
届出諸事情の 住所、氏名、届出印、法人株主の代表者あるいはその役職名、
変更について 商号、配当金の振込口座等の変更は、三菱UFJ信託銀行の本店・支店*でお手続きください。
※お手続きについては、株式会社証券保管振替機構に株券を預託されている場合には、お取引の証券会社にお申し出ください。

株式会社エイジスは、株主の皆さまへの利益還元のひとつとして株主優待制度を実施しております。



●割当基準日 9月末日

●優待内容

- 100株以上1,000株未満所有の株主様
お米券3kgを贈呈いたします。
- 1,000株以上10,000株未満所有の株主様
お米券5kgを贈呈いたします。
- 10,000株以上所有の株主様
お米券10kgを贈呈いたします。



株式会社エイジス

〒262-0032 千葉県千葉市花見川区幕張町4-544-4
TEL：043-350-0888 FAX：043-350-0800

●コーポレートマークの由来
ロゴマークは、ローマ字・キータッチ・カタカナの三位体で構成されています。またエイジスのコーポレートカラーである白・青・赤は、白=お客様に対して誠実に仕事をする姿勢、青=冷静・沈着な作業態度、そして赤=エイジスマン・ウーマンの胸に秘めた情熱を表しています。



“Low Cost Operation”時代の棚卸システム



いまや日々の暮らしに欠かせない、街のインフラとなったチェーンストア。消費者のニーズに応じて、大型化、年中無休化が進んでいます。チェーンストア経営に求められる課題は、「ローコストオペレーション」「効率的な全国展開への対応」「従業員の販売への専門特化」。これに応えるアウトソーシングをエイジスがサポートしています。

実地棚卸サービス

閉店後から開店までの時間を有効に使って実施いたしますので、365日24時間いつでも営業時間や定休日に左右されることなく実地棚卸が実施できます。

カスタマーサービス・チェック

店舗に専門(覆面)調査員が訪れ、ストアコンディションや接客状態を、来店客の視点から客観的に調査します。

来店客調査サービス

お客様の居住地域や来店方法、来店手段、利用状況など、商圈調査・顧客満足度調査を実施します。

レジ派遣サービス

繁忙期や新規開店などに伴うレジ要員不足を解決。派遣だけでなく請負契約も可能です。要員不足に悩む事なくレジを稼働させることができます。

集中補充サービス

営業時間外に、責任者の監督のもとに補充作業と手直し作業を請け負います。開店時刻には、完成された売場でお客をお迎えできます。バック在庫削減、欠品減少、売上上昇等の様々な効果が期待できます。

おかげさまで、
連結売上高13.2%増、
連結当期純利益25.9%増を
達成いたしました。



当期（第30期）の業績と、その背景をお聞かせください。

おかげさまで、当期（第30期）は連結売上高で前期比13.2%増、連結営業利益で24.7%増、連結当期純利益25.9%増と、当初計画を上回る増収増益を達成することができました。

その理由としては、当社のお客様であるホームセンターやドラッグストアおよびアパレル、100円ショップなどの新店舗増や事業の拡大があり、当社への受注が増加したためです。また、利益面の大幅な向上は、クレーニングシステムの精度を高めたことにより、効率的な人員配置の運用ができたことがあげられます。

クレーニング担当者は個人別のスキルをもとに精度の高い作業割り当てを行い、人員設定を行うことができました。このこ



代表取締役社長 齋藤昭生

とがこのたびの収益性向上の大きな要因であると言えます。

また、棚卸サービスに高付加価値が要請されるようになってきたことも業績向上の理由です。従来からの金額棚卸サービスから、経営戦略にも活かせる詳細なデータを提供できる単品棚卸サービスのニーズが高まり、付加価値の高いサービスの増加が、当社の収益性向上に大きく貢献しました。さらに、近年、勢いが増している流通業界の再編も、当社にとってプラス効果となっています。大型M&Aや提携などによってスケールメリットを追求する企業が増えており、これによる経営規模の拡大や全国への店舗展開に対応できる当社への評価が、さらなるシェア拡大をもたらしています。

クルーイングシステムなどITシステムの強化と リテイルサポートビジネスや海外展開の強化により、さらなる成長のステージを実現します。

Q エイジスグループの成長に向けた取り組みをお聞かせください。

実地棚卸サービスのアウトソーシングのニーズは、今後さらに拡大すると予測されます。また、棚卸に求められるサービスの質も高度化してくると思われれます。なぜなら、日本の経営環境の変化に伴い棚卸に対する意識にも大きな変化が起きているからです。

一昔前は、棚卸といえば利益の確定が主な目的でしたが、現在は商品の単品ごとの在庫数量とロスが確定でき、商品の位置情報も把握でき、より精度が高く情報を多く提供できる単品棚卸の需要が高まっています。さらに、棚卸の対象も店内の商品だけではなく、倉庫やオフィスの資産などへと広がりを見せています。

これまで、当社の主要取引先はコンビニエンスストア、スーパーマーケット、ホームセンター、ドラッグストア、書店、G.M.S.、100円ショップなどの小売業でしたが、今後は企業の設備、備品管理を目的とする資産棚卸と、物流の要となる倉庫棚卸の新市場開拓により取引先を増やし、棚卸サービスの業容拡大を図ってまいります。

もう一つのテーマが、リテイルサポートビジネスの積極的拡大です。当社では、これまで人材派遣業務を行ってきた(株)コマーシャルサービスシステム・ジャパンを、平成19年4月よりエイジススタッフサービス(株)と名称を改め、エイジスブランドを活用した営業強化に取り組んでいます。既に当下期には黒字化を実現しており、今後は新しいビジネスモデルを構築し通期での黒字化をめざします。また、当社のCSC事業部は、平成19年4月に新社名(株)カス

タマーサービス・チェックとして分社化いたしました。今後、専門性の強化と業績責任の明確化により受注拡大を図ってまいります。

さらに、海外戦略として、エイジス韓国の業容拡大にもさらに力を入れてまいります。

今後もエイジスグループとしてのシナジーを活かした事業展開により、継続的成長を続けてまいりたいと考えております。

Q 中・長期的な戦略および施策をお聞かせください。

長期にわたる棚卸ビジネスの成長のためには、人員の質的向上と動員力の一層の強化は必要不可欠です。

さらに、精度の高い単品棚卸の需要が高まっていくなか、さらなる生産性向上と品質向上のために、ITへの投資を重要課題としています。すでに成果を出しているクルーイングシステムにおいても、より精度の高い、効率的な人員計画の実現を図ってまいります。

これからの棚卸市場は、第三者機関による正確で透明性の高い棚卸サービスの需要が高まると予測されます。

当社は、実地棚卸サービスにおいて圧倒的な強さを誇っていますが、一層の高品質と高付加価値を求めて、科学的な手法を取り入れた世界最高水準の棚卸サービスを確立し、さらなる事業の強化を図ってまいります。

また、リテイルサポートビジネスや海外子会社も強化し、グループとしての総合力をさらに拡大してまいります。

グループ会社の平成22年3月期の目標としては、エイ



ジススタッフサービス(株)の売上高26億円、エイジス韓国の売上高6.3億円を計画しています。

Q 最後に、株主様へのメッセージをお願いいたします。

当期は、おかげさまで好業績を実現できましたので、当期末の1株当たりの配当を、当初予定から2.5円を加えて42.5円とさせて頂きました。前期の配当実績35円に対して普通配当5円の増配と2.5円の30周年記念配当を加え、合計7.5円の増配となります。当社では、今後も継続的成長を続けていくことにより、その成果を株主の皆様へ還元する努力を続けてまいります。

当社の事業の目的は、実地棚卸サービスを通して、流通業の生産性を高め、物価の安定と日本国民の豊かな消費社会の実現へ貢献することにあります。今後は、実地棚卸サービスだけではなく、より広く流通業をサポートするリテイルサポートサービスの拡大によって、さらに社会貢献性の高い事業展開をめざしてまいります。

ぜひとも株主の皆様のご支援をお願い申し上げます。

今後の成長のポイント

成長を持続させるための品質向上への投資継続

- 人材補強
- システム投資

関連会社との連携によるグループ力強化

- リテイルサポートビジネスの強化
- 海外子会社：エイジス韓国

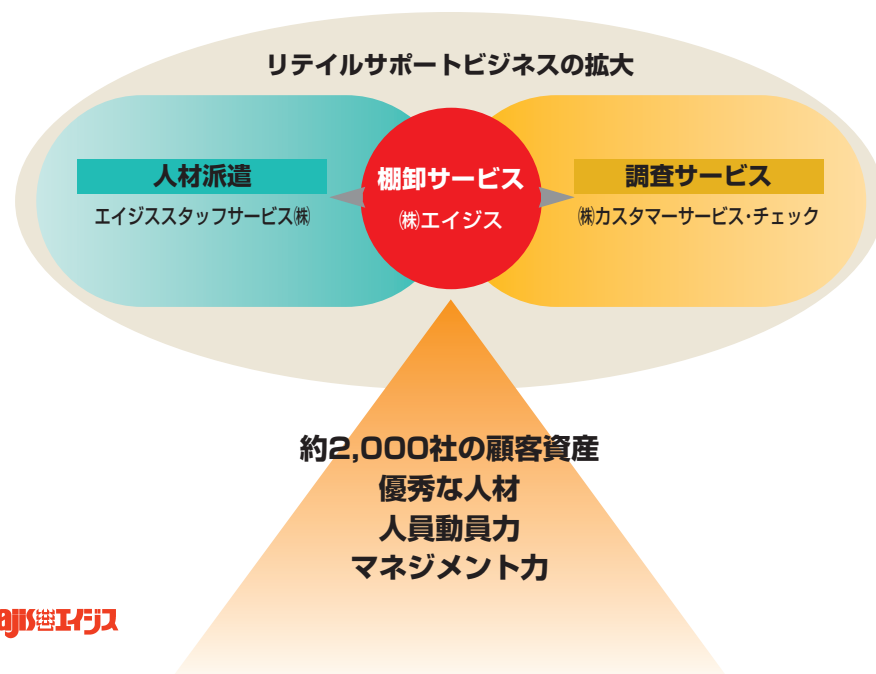
今後のビジョン（連結子会社）

	平成20年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期
エイジススタッフサービス(株)	15.0億円	20.0億円	26.0億円
エイジス韓国	4.3億円	5.0億円	6.3億円
棚卸サービス業の顕在市場規模	270億円	290億円	315億円

リテイルサポートビジネス

チェーンストア約2,000社の 多彩なニーズに対応して エイジスグループの成長に貢献します。

当社では、実地棚卸サービスの提供を通し信頼されてきたチェーンストアなど約2,000社の顧客に向けて、培ってきた優秀な人材、人員動員力、マネジメント力を結集し、チェーンストアの店舗運営をサポートする人材派遣事業および調査サービス（カスタマーサービス・チェック）事業を中心としたリテイルサポートビジネスを本格展開。全国均一なサービス力を活かし、新たな事業の柱として確立させていきます。



チェーンストアの人材政策を、即 戦力でサポート。

人 材 派 遣	
エイジススタッ (平成19年4月1日より、(株)コマーシャル	フサービス(株) サービスシステム・ジャパンから商号変更)

当社では、これまで人材派遣業務を担ってきた子会社(株)コマーシャルサービスシステム・ジャパンの商号を変更。エイジススタッフサービス(株)として、エイジスブランドを鮮明に打ち出し、人材派遣業務を積極展開します。

●エイジスグループの人材戦略を担う
棚卸サービス経験者の閑散期での業務を確保。人材の有効活用と定着に貢献。

エイジスの棚卸サービスの経験と教育研修により、チェーンストアの業務知識とマナーを習得した優れた人材は、お客様企業にとって、棚卸以外の様々な業務においても、大きな価値を生みます。

エイジススタッフサービス(株)は、これらの人材に、チェーンストア各種業務のスキル習得を支援。即戦力の人材を派遣します。

これにより、棚卸サービスの閑散期での業務確保を実現するとともに、優れた人材の長期的定着をも実現するなど、当社の人材戦略に大きく貢献しています。

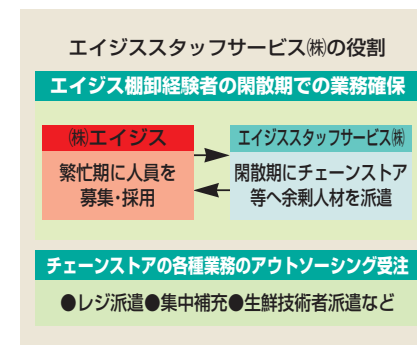
●チェーンストア業務のアウトソーシング受注
チェーンストアの各種業務に即戦力人員を派遣。顧客企業の効率経営に貢献。

競争力強化や経営の効率化に向けて、基幹業務以外の業務については、戦略的

にアウトソーシングしていこうと考えるチェーンストアは、増加傾向にあります。

エイジススタッフサービス(株)では、チェーンストア店舗の繁忙期や新規開店等に伴う様々な店内作業に向けて、レジ業務や商品の集中補充業務、また生鮮技術者などの即戦力を派遣。お客様企業は、社員の残業時間の削減や、パートやアルバイトの求人費や研修コストも削減できます。

今後は、人材派遣における新しいビジネスモデルを構築し、受注拡大に努めてまいります。



高い集客力を実現する接客レベル向上へ、専門調査員がサポート。

調査サービス
(株)カスタマーサービス・チェック (平成19年4月1日より、カスタマーサービス・チェック事業部門を分社化)

当社では、これまで社内に設けていたカスタマーサービス・チェック事業部門を、4月1日より(株)カスタマーサービス・チェックとして分社化。専門会社として業務効率化・業績責任を明確化することで、積極的な事業展開を推進していきます。

●カスタマーサービス・チェックとは？
第三者による客観的調査により、接客レベルおよび集客力の向上に貢献。

カスタマーサービス・チェックとは、店舗の運営や接客レベルを、第三者による客観的調査により、現場のサービスレベルの実態をつかみ、その実態がお客様の求めるサービスレベルに近づいているかを把握するものです。

教育された調査員による的確な調査と精度の高いレポートにより、自社のサービスレベルを客観的な指標で再確認することができ、これにより顧客満足度の高い店舗運営をサポートします。

●流通先進国アメリカのノウハウを導入
チェーンストア本部の方針に比べ、顧客満足だけではなく、従業員満足にも貢献。

カスタマーサービス・チェックは、流通先進国アメリカでは様々な流通業の顧客満足度向上に活用されています。また

今後は、日本の多くのチェーンストアでの採用が見込まれます。

(株)カスタマーサービス・チェックでは、アメリカのノウハウを取り入れ、チェーンストア本部による顧客満足レベル向上の取り組みをサポート。また公平な評価により従業員満足を高めることも支援し、チェーンストアの繁栄に貢献します。

提供するサービス

- ◆店舗の実態把握
調査と教育ツールの連動により、教育研修後の進捗状況を把握。またオペレーションマニュアルの浸透などの実態を把握します。
- ◆店舗管理
内部調査では困難な公平な評価を実現。また調査の公開により、売場に適度な緊張感をもたらし、接客対応の向上に役立ちます。
- ◆人事考課
調査結果を公平な評価制度によりフィードバックすることで、スタッフのモチベーション向上・人事制度への活用も可能です。
- ◆お客様心理
調査店舗での、顧客の感想、顧客満足度などを、顧客の視点から報告します。
- ◆競合店把握・差別化
周辺の競合店との比較調査により、自社の強みや弱みが明確となり、他社との差別化を図るための取り組み方針に活用できます。

当期の概況（連結）

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業業績の改善による設備投資の増加に加え、雇用、所得環境の改善による個人消費の堅調な拡大を背景に、景気は回復基調で推移しました。

当社の主要顧客であります流通業界は個人消費は回復しつつあるものの、業態を超えた競争の激化等により依然厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社グループは顧客のローコストオペレーション、チェーンストア化を側面からサポートするために、棚卸サービス事業においては、積極的な顧客開拓を図ると共に、競合他社との差別化を図るため特に棚卸精度の向上に注力してまいりました。また、カスタマーサービス・チェックをはじめとするニューサービスの拡大にも注力し、顧客のニーズに対応してまいりました。

セグメント別の概況

【実地棚卸サービス事業】
棚卸受託収入の売上高は前期比12.1%増の14,076百万円となりました。業態別の内訳は下記のとおりです。

- コンビニエンスストア
既存大手顧客の受注増により、売上高は前期比6.1%増の3,184百万円となりました。
- スーパーマーケット
新規顧客の獲得および既存顧客の受注増により、売上高は前期比10.2%増の2,055百万円となりました。
- ホームセンター・ドラッグストア・ディスカウントストア
新規顧客の獲得および既存顧客の受注増により、売上高は前期比16.1%増の3,065百万円となりました。
- 書店
新規顧客の獲得により、売上高は前期比3.5%増の

914 百万円となりました。

- G.M.S.（注）
既存顧客の受注増により、売上高は前期比10.4%増の1,846百万円となりました。
- その他
新規顧客の獲得および既存顧客の受注増により、売上高は前期比20.7%増の3,009百万円となりました。

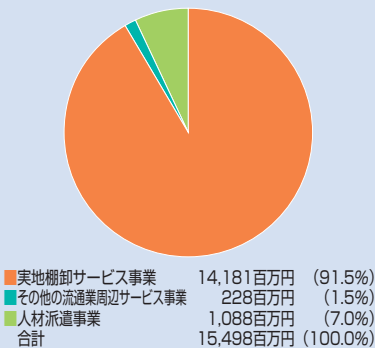
（注）G.M.S.（General Merchandise Store）
大衆実用品のうち、新機能開発品主力の総合店。
いわゆる日本型大型総合スーパーであります。

【人材派遣事業】
流通業の新規顧客の獲得等により、売上高は前期比25.8%増の1,088 百万円となりました。

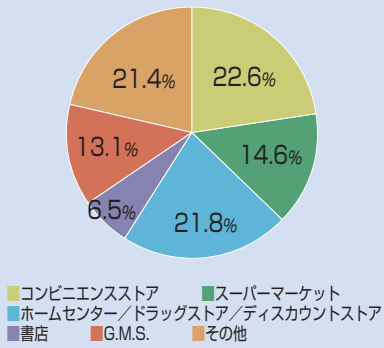
上記のとおり、棚卸受託収入の合計は14,076百万円となり、ロイヤリティ収入の105 百万円を加えると、実地棚卸サービス事業の合計は14,181百万円（前期比12.1%増）となりました。その他の流通業周辺サービス事業の売上高228百万円、人材派遣事業の売上高1,088百万円を加えた当連結会計年度の売上高は15,498百万円（同13.2%増）となりました。

収益面では、経常利益1,867 百万円（同24.8%増）、当期純利益1,085 百万円（同25.9%増）となりました。

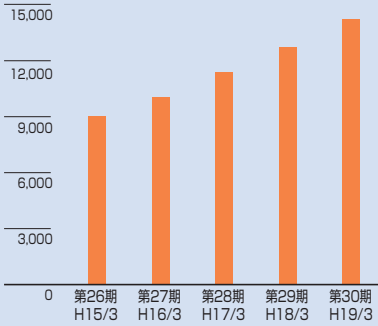
セグメント別売上高（構成比）



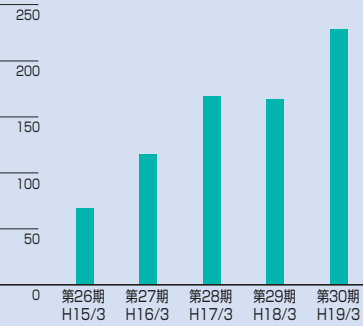
棚卸受託収入の業態別売上高 構成比



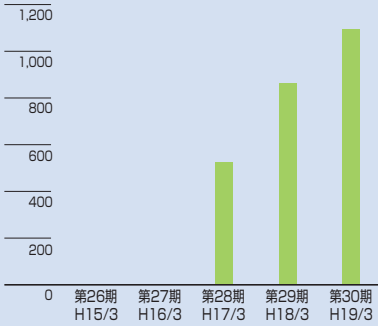
実地棚卸サービス事業売上高（単位：百万円）

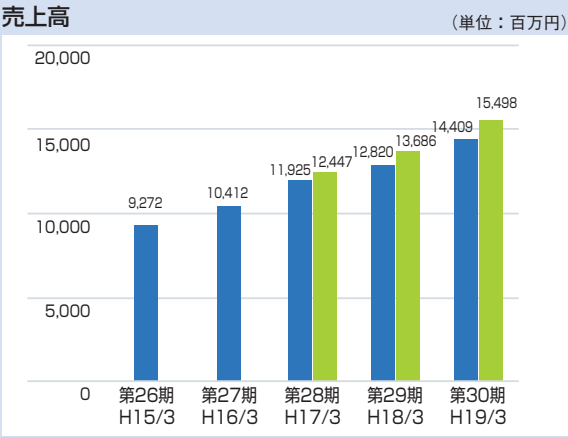


その他の流通業周辺サービス事業 売上高（単位：百万円）

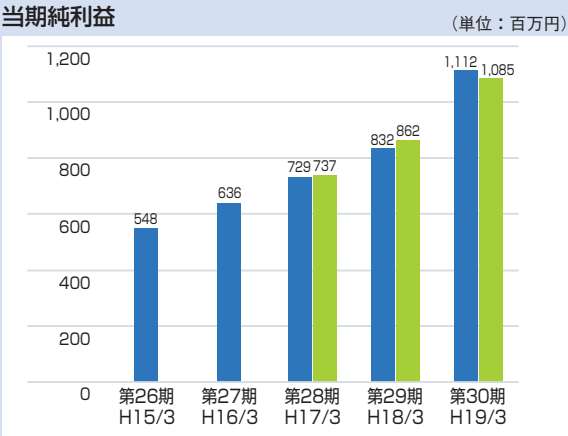


人材派遣事業売上高（単位：百万円）

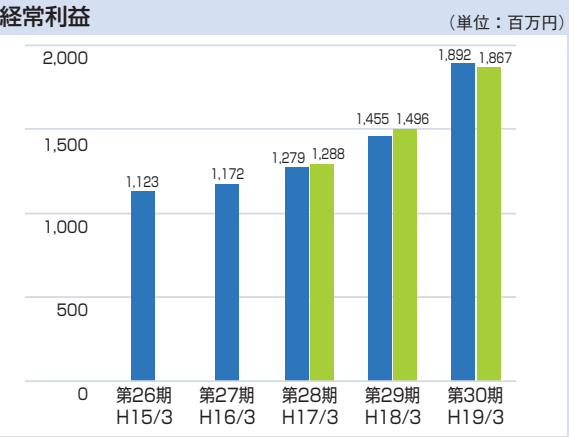




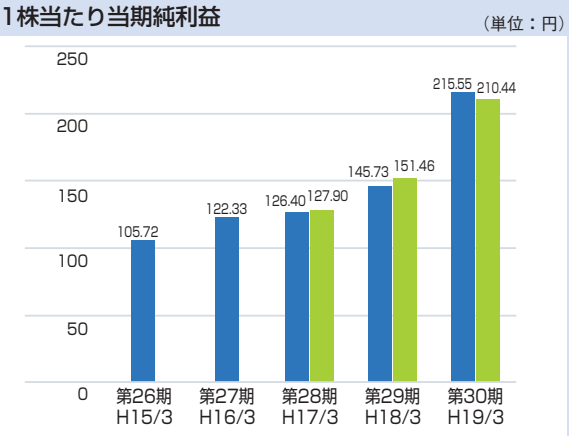
ホームセンター、ドラッグストアおよびその他の業態の新規顧客の獲得と既存顧客の受注増等により、当期の連結売上高は前期比13.2%増の15,498百万円となりました。



特別利益として確定拠出年金制度移行益94百万円を計上した結果、連結当期純利益は前期比25.9%増の1,085百万円となりました。



組織強化の為の積極的な人材採用等により、販売費及び一般管理費は増加したものの、クルーイングシステムによる効率的な人員配置の運用に努めた結果、当期の連結経常利益は前期比24.8%増の1,867百万円となりました。



当期純利益の増加により、連結1株当たり当期純利益は前期の151.46円から大幅に増加し、210.44円となりました。

連結貸借対照表（要旨） (単位：百万円)

	当 期 H19.3.31現在	前 期 H18.3.31現在
資産の部		
流動資産	5,286	4,333
固定資産	2,290	2,161
資産合計	7,576	6,495
負債の部		
流動負債	2,588	2,042
固定負債	97	279
負債合計	2,685	2,321
資本の部		
資本金	—	475
資本剰余金	—	489
利益剰余金	—	3,616
その他有価証券評価差額金	—	71
自己株式	—	△478
資本合計	—	4,173
負債及び資本合計	—	6,495
純資産の部		
株主資本	4,827	—
資本金	475	—
資本剰余金	489	—
利益剰余金	4,464	—
自己株式	△602	—
評価・換算差額等	63	—
純資産合計	4,890	—
負債及び純資産合計	7,576	—

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書 (単位:百万円)

当 期 平成18年4月1日から平成19年3月31日まで	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産合計
平成18年3月31日残高	475	489	3,616	△478	4,102	71	4,173
連結会計年度中の変動額							
剰余金の配当（注2）			△180		△180		△180
役員賞与（注2）			△57		△57		△57
当期純利益			1,085		1,085		1,085
自己株式の取得				△123	△123		△123
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					-	△7	△7
連結会計年度中の変動額合計	—	—	848	△123	724	△7	717
平成19年3月31日残高	475	489	4,464	△602	4,827	63	4,890

(注1) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。
(注2) 平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

連結損益計算書（要旨） (単位：百万円)

	当 期 H18.4.1～H19.3.31	前 期 H17.4.1～H18.3.31
売上高	15,498	13,686
売上原価	11,403	10,388
売上総利益	4,094	3,297
販売費及び一般管理費	2,247	1,815
営業利益	1,847	1,482
営業外収益	28	21
営業外費用	8	6
経常利益	1,867	1,496
特別利益	94	13
特別損失	45	7
税金等調整前当期純利益	1,917	1,502
法人税、住民税及び事業税	788	655
法人税等調整額	43	△14
当期純利益	1,085	862

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨） (単位：百万円)

	当 期 H18.4.1～H19.3.31	前 期 H17.4.1～H18.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,340	919
投資活動によるキャッシュ・フロー	△432	△305
財務活動によるキャッシュ・フロー	△454	△545
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	—
現金及び現金同等物の増加額	454	67
現金及び現金同等物の期首残高	2,094	2,027
現金及び現金同等物の期末残高	2,548	2,094

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

単体 ■ 連結 ■ 第26期・第27期はエイジス単体のみを表示しております。

貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

	当 期 H19.3.31現在	前 期 H18.3.31現在
資産の部		
流動資産	5,057	4,098
固定資産	2,408	2,289
資産合計	7,466	6,388
負債の部		
流動負債	2,444	1,927
固定負債	97	279
負債合計	2,541	2,207
資本の部		
資本金	—	475
資本剰余金	—	489
利益剰余金	—	3,623
その他有価証券評価差額金	—	71
自己株式	—	△478
資本合計	—	4,180
負債及び資本合計	—	6,388
純資産の部		
株主資本	4,860	—
資本金	475	—
資本剰余金	489	—
利益剰余金	4,498	—
自己株式	△602	—
評価・換算差額等	63	—
純資産合計	4,924	—
負債及び純資産合計	7,466	—

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

	当 期 H18.4.1～H19.3.31	前 期 H17.4.1～H18.3.31
売上高	14,409	12,820
売上原価	10,637	9,690
売上総利益	3,772	3,130
販売費及び一般管理費	1,906	1,697
営業利益	1,866	1,433
営業外収益	34	28
営業外費用	8	6
経常利益	1,892	1,455
特別利益	94	13
特別損失	45	7
税引前当期純利益	1,941	1,461
法人税、住民税及び事業税	786	644
法人税等調整額	43	△14
当期純利益	1,112	832
前期繰越利益	—	241
当期末処分利益	—	1,073

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

当 期 平成18年4月1日から平成19年3月31日まで	株主資本									評価・換算差額等	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	その他利益剰余金			自己株式	株主資本 合計		
		資本準備金	その他資本剰余金		特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金				
平成18年3月31日残高	475	489	0	63	6	2,480	1,073	△478	4,109	71	4,180
事業年度中の変動額											
特別償却準備金の取崩 (注2)					△2		2		－		－
特別償却準備金の取崩					△2		2		－		－
別途積立金の積立 (注2)						580	△580		－		－
剰余金の配当 (注2)							△180		△180		△180
役員賞与 (注2)							△57		△57		△57
当期純利益							1,112		1,112		1,112
自己株式の取得								△123	△123		△123
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)									－	△7	△7
事業年度中の変動額合計	－	－	－	－	△5	580	299	△123	751	△7	743
平成19年3月31日残高	475	489	0	63	1	3,060	1,373	△602	4,860	63	4,924

（注1）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。（注2）平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

株式の状況（平成19年3月31日現在）

発行可能株式総数……………14,000,000株

発行済株式の総数……………5,385,600株

株主数……………2,466名

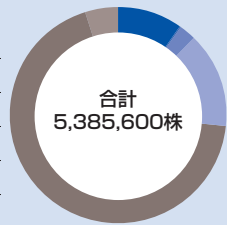
大株主（上位10名）（平成19年3月31日現在）

株主名	当社への出資状況	
	持株数（株）	出資比率（%）
斎藤陽子	678,800	12.60
斎藤昭生	674,980	12.53
斎藤茂昭	569,100	10.57
ゴールドマンサックスインターナショナル	301,000	5.59
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	279,500	5.19
斎藤泰範	273,170	5.07
エイエスピーシーバンクピーエルシーアカウント	206,890	3.84
アトランティスジャパングロースファンド		
小林美保子	170,700	3.17
斎藤茂男	159,400	2.96
清水昭順	92,570	1.72

（注）当社は、自己株式265千株を保有しておりますが、当該株式には議決権がないため上記大株主から除外しております。

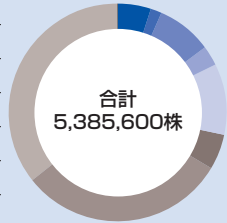
所有者別分布状況（平成19年3月31日現在）

■ 金融機関	519,940株(9.65%)
■ 証券会社	10,583株(0.20%)
■ その他の法人	132,930株(2.47%)
■ 外国法人等	769,480株(14.29%)
■ 個人・その他	3,687,457株(68.47%)
■ 自己名義株式	265,210株(4.92%)

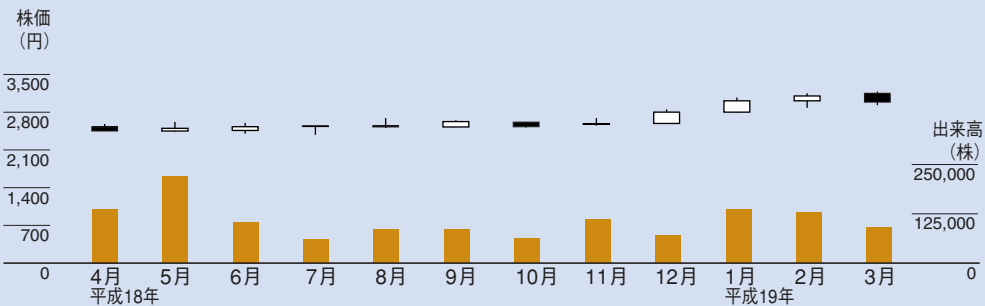


所有株数別分布状況（平成19年3月31日現在）

■ 1単元未満	3,250株(0.06%)
■ 1単元以上	262,870株(4.88%)
■ 5単元以上	88,680株(1.65%)
■ 10単元以上	441,710株(8.20%)
■ 50単元以上	158,784株(2.95%)
■ 100単元以上	568,960株(10.56%)
■ 500単元以上	282,596株(5.25%)
■ 1,000単元以上	1,655,870株(30.75%)
■ 5,000単元以上	1,922,880株(35.70%)



株価・出来高の推移



会社概要（平成19年3月31日現在）

会 社 名	株式会社エイジス (英文名 AJIS CO.,LTD.)
資 本 金	475百万円
設 立 年 月 日	1978年5月23日
従 業 員 数	221名 ※連結
営 業 拠 点	直営44ヶ所 FC30ヶ所 (合計74ヶ所)
業 務 内 容	●実地棚卸サービス ●その他の流通業周辺サービス
主要取引銀行	●三菱東京UFJ銀行 千葉支店 ●みずほ銀行 千葉支店 ●三井住友銀行 千葉支店
ホームページ	http://www.ajis-group.co.jp/

取締役および監査役（平成19年6月28日現在）

取 締 役 会 長	芦 部 克 生
代表取締役社長	斎 藤 昭 生
常 務 取 締 役	近 江 元
常 務 取 締 役	山 地 琢 巳
取 締 役	仁 田 善 郎
取 締 役	竹之下 正 夫
取 締 役	高 橋 一 人
取 締 役	秋 葉 孝
取 締 役	五十嵐 亨 司
取 締 役	戸 丸 富志夫
取 締 役	山 根 洋 行
常 勤 監 査 役	鈴 木 行 雄
監 査 役	安 田 登

主要取引先（平成19年3月31日現在）

コンビニエンスストア		
イー・エム・ピー・エム・ジャパン サークルKサンクス スリーエフ	セーブオン セブン・イレブン・ジャパン デイリーヤマザキ	ファミリーマート ミニストップ ローソン
G.M.S.スーパーマーケット		
イオン イズミヤ イトーヨーカ堂 いなげや オークワ カスミ 関西スーパーマーケット コープこうべ コープネット サミット	西友 ダイエー 大黒天物産 トヨタ生協 長崎屋 パロー 平和堂 ペイシア マイカル マックスバリュ	マルエツ みやぎ生協 ヤオコー ヤマザワ ヤマナカ ユーコープ事業連合 ヨークベニマル ライフコーポレーション
百貨店		
西武百貨店 大丸 高島屋	天満屋 阪急百貨店 阪神百貨店	松坂屋 松屋 三越
ホームセンター/ドラッグストア/ディスカウントストア		
アークランドサカモト アライドパーツ・ホールディングス カーマ カインズ カワチ薬品 クスリのアオキ クリエイト エス・ディー ケーヨー コーナン商事	サンドラッグ CFSコーポレーション 島忠 スギ薬局 セイジョー セキチュー 千葉薬品 ツルハ トステムビバ	富士薬品 PLANT ホームマック マツモトキヨシ ユタカファーマシー ユニリビング ロイヤルホームセンター
書店		
旭屋書店 アシーネ 紀伊國屋書店 三省堂書店 三洋堂書店	ジュンク堂 TSUTAYA 阪急電鉄（ブックファースト） 東日本キヨスク 文教堂	文真堂書店 丸善 宮協書店 有隣堂 リブロ
その他		
赤ちゃん本舗 アディダスジャパン エディー・パウアー エディオン ギャップジャパン キャンドゥ 九丸プラス クリスチャン ディオール クレアーズ日本 コーチ・ジャパン コジマ	ジョルジオ アルマーニ ジャパン ゼビオ セリア 大創産業 東急ハンズ 東京シャツ ドン・キホーテ 西松屋チェーン ニトリ 日本トイザらス パル	ヒラキ 藤久 ポイント やまや ユニクロ ライトオン 良品計画 ロフト ワークマン

※敬称・法人格は省略させていただいております。※50音順

●株式会社エイジス（平成19年3月31日現在）

青森D.O.	大宮D.O.	四日市D.O.
盛岡サテライト	川越サテライト	岐阜D.O.
秋田D.O.	千葉D.O.	金沢D.O.
仙台D.O.	市原サテライト	富山サテライト
山形D.O.	柏D.O.	大阪D.O.
郡山D.O.	東京D.O.	堺D.O.
小山サテライト	東東京サテライト	東大阪D.O.
宇都宮D.O.	吉祥寺D.O.	奈良サテライト
水戸D.O.	八王子D.O.	京都D.O.
土浦サテライト	横浜D.O.	滋賀サテライト
新潟D.O.	厚木D.O.	神戸D.O.
高崎D.O.	沼津D.O.	姫路サテライト
長野D.O.	静岡サテライト	岡山D.O.
松本サテライト	浜松D.O.	松江サテライト
熊谷サテライト	名古屋D.O.	

●エイジス九州株式会社

広島D.O.	福岡D.O.	熊本D.O.
広島北サテライト	福岡東サテライト	宮崎D.O.
福山D.O.	久留米D.O.	鹿児島D.O.
山口D.O.	長崎D.O.	沖縄D.O.
小倉D.O.	佐世保サテライト	沖縄北サテライト
大分D.O.	佐賀D.O.	

●エイジス北海道株式会社

札幌D.O.	函館D.O.	帯広D.O.
札幌中央D.O.	旭川D.O.	釧路D.O.
苫小牧D.O.	北見D.O.	厚別D.O.

●エイジス四国株式会社

高松D.O.	松山D.O.
徳島D.O.	高知D.O.



フランチャイズ3社および関連会社4社を含めたエイジスグループ全体の営業ネットワークは国内、海外合わせて79営業拠点です。

●関連会社（平成19年4月1日現在）

エイジススタッフサービス株式会社（千葉市 人材派遣業）
エイジスビジネスサポート株式会社（大韓民国 ソウル特別市 実地棚卸サービス業）
ソウルD.O./ブサンサテライト
大連愛捷是科技有限公司（中華人民共和国遼寧省大連市 システム開発等）
株式会社カスタマーサービス・チェック（千葉市 覆面調査）

（注）D.O.(ディストリクト オフィス) とは営業所のことです。
サテライトとは出張所のことです。